

教えて!!

海老名市の財政

食費(人件費)・医療費(扶助費)・ローン返済(公債費)で支出の半分くらいを占めているけれど大丈夫?

人件費・扶助費・公債費は、その支出が義務付けられているもの(「義務的経費」)で、自由に節減できないものです。平成25年度の義務的経費の割合は49.4%で、決算統計によると政令市を除く県内16市の中で3番目に低い割合となっています。なお、県内市の平均は52.2%です。



義務的経費割合は県内市の中で3番目の低いです。

貯金と借金はどう変わった?

10年前と比べ、貯金・ローン残高ともに減っています。

借金をする理由は?

多額の費用がかかる公共施設や道路などを建設するとき、市では長期のローン(市債の発行)を組みます。ローンを組まないで建設した場合、建設時の市民の財政負担が大きくなるほか、その影響でほかの行政サービスの低下を招いてしまう可能性があります。その施設を使う「次世代の市民」と「建設時の市民」の間に不公平が生じないようにするため、ローンを組み、分割で返済しているのです。

	平成25年度	平成15年度
基金残額	54億3,446万4,000円	56億8,426万6,000円
市債残高	237億1,367万4,000円	245億2,193万円

平成25年度の歳入総額を
年収500万円に換算すると...

	平成25年度	平成15年度
貯金残額	70万円	73万円
ローン残高	305万円	315万円

健康診断結果は良好

財政健全化法に基づき、市の財政状況に関して私たちの暮らしでいう健康診断を毎年行っています。これは、5つのお財布の中身全てが判断材料となります。財政健全化法では、「早期健全化基準」を超えると「経過観察」「黄信号」、「財政再生基準」を超えると「要治療」「赤信号」と判断されます。平成25年度の健康診断の結果、市の診断結果は「健康状態良好」と判断されました。

実質公債費比率って何? 0.6% (25.56%)

実質公債費比率は、一般会計が負担する公債費(過去の市債返済にかかる元利償還金と一時借入金金の利子)と公債費に準じた経費の割合を表したもので、低いほど良いとされています。0.6%は、政令市を除く県内16市の中で2番目に低い数値です。

協働のまちづくりへ

えびな市民活動センター・ピナスポ(レクリエーション館)の建設を進めました。市民の健康増進、スポーツを通じた市民活動を推進するため、施設の運営は指定管理者が行い、民間のノウハウを生かした健康増進メニューを提供します。



▲ピナスポのレクリエーションルーム

平成25年度の主な取り組み

次代へつなぐ 新たなまち

海老名駅西口地区土地画整理事業の促進、海老名駅自由通路(駅間部・西口部)の整備、西口地区関連の道路整備などを進めました。引き続き、新たなまちのまちはらぎに向けて着実に取り組んでいきます。



▲着々と進む西口地区の整備

来庁者へのサービス 向上に向けて

市役所1階のフロア案内と市民総合窓口業務の民間委託を実施しました。11月4日(火)からは、福祉総合窓口業務の民間委託を実施します。



▲市民総合窓口

災害時に備える

災害時の飲料水確保のため、「地下水膜ろ過システム」を試験的に北部公園に導入、26年6月から運用を始めました。



▲地下水をくみ上げる原水ポンプ



▲北部公園体育館裏に設置の地下水膜ろ過システム

健全化判断比率

	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-(赤字なし)	12.24%	20%
連結実質赤字比率	-(赤字なし)	17.24%	30%
実質公債費比率	0.6%	25.00%	35%
将来負担比率	-(算定されません)	350.00%	—